

旭日単光章を受章

町が小田島利英さんを顕彰

令和2年10月1日付で小田島利英さんが旭日単光章（地方自治功労）を受章し、11月30日、伝達式および町による顕彰状授与式が町長室で行われました。

小田島さんは、平成9年3月から平成21年2月まで12年間にわたり、津別町議会議員として地方自治の振興に尽力し、地域の発展に貢献してきました。

荣誉ある受章に輝いた小田島さんに、佐藤町長より旭日単光章の勲章ならびに勲記が伝達され、町からは顕彰状が贈られました。



▲勲記の伝達を受ける小田島さん(右)

経済産業省所管統計調査功績者表彰 後藤充子さん、森居孝子さんが受賞

後藤充子さんと森居孝子さんが令和2年度経済産業省所管統計調査功績者表彰を受賞し、11月27日、町長室において佐藤町長より表彰状が手渡されました。

後藤さんは平成7年、森居さんは昭和61年から、経済産業省所管構造統計調査に永年にわたって従事しており、その功績が認められたものです。



▲後藤さん(左)と森居さん

主食・副食ともに津別産食材を使用 オール津別給食を三日間実施

津別小・中学校、津別高校にて11月25日、27日、30日にオール津別給食を行いました。

全て地場産物の食材を使用することにより、子どもたちが津別の食材及び学校給食に興味を持ち、郷土を愛する心の育成を目的として実施しているオール津別給食。平成27年から始まり、今年で6年目を迎えます。25日に米、27日にパン、30日に麺と、各主食も津別産食材で提供。給食を食べた子どもたちは、とても美味しかったと感想を述べていました。



▲オール津別給食を食べる児童

民生委員活動を通じて社会福祉の増進に貢献 元・現民生委員3人が北海道社会貢献賞を受賞

令和元年11月まで民生委員を務められた中川孝敏さん、現職の民生委員である中山晋男さん、新井昇さんが令和2年度北海道社会貢献賞（社会事業関係功労者）を受賞し、12月10日・14日に伝達式が行われました。

受賞者は、社会奉仕の精神をもって長きにわたり社会福祉の増進に貢献された功績が認められたものです。今年にはコロナ禍で札幌市での授賞式が中止となったことから、佐藤町長よりお一人お一人に表彰状ならびに記念品が手渡されました。



▲表彰状の伝達を受ける中川さん(右)

北海道国保団体連合会表彰 相澤誠さんが受賞

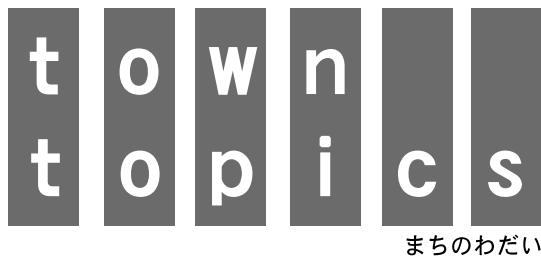
相澤誠さん（丸玉木材株式会社津別病院院長）が令和2年度北海道国民健康保険団体連合会表彰を受賞し、12月4日、町長室において伝達式が行われました。

相澤さんは平成19年11月以来、国民健康保険保険医を代表する津別町国民健康保険運営協議会委員として今日まで永年にわたり、国保事業の健全運営に寄与しています。

伝達式では佐藤町長より表彰状と記念品が手渡されました。



▲表彰状の伝達を受ける相澤さん(右)



まちのわだい

林業・木材産業の発展に貢献 加賀谷さんに道産業貢献賞

加賀谷雅治さん（加賀谷木材株式会社代表取締役社長）が令和2年度北海道産業貢献賞（森林づくり功労者）を受賞し、12月15日、林業研修会館において伝達式が行われました。

加賀谷さんは、木製品の原料である原木を無駄なく有効に活用し、地域材の利用促進に貢献してきました。また、教育委員会の「木育授業」に協力し、小学生の工場見学等の取り組みを通じた、森林資源の循環利用などの普及にも尽力されています。



▲左から佐藤町長、加賀谷さん、オホーツク総合振興局地域産業担当・赤澤部長

水道給水停止時に協力・支援 町から感謝状を贈呈



▲感謝状を手にする両社の代表と佐藤町長(中)

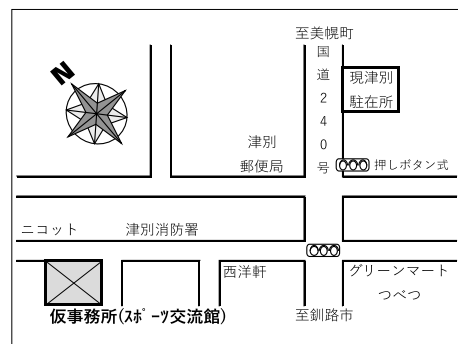
12月10日、町長室において、株式会社清水建設、東日本建設株式会社の2社へ佐藤町長から感謝状が贈られました。両社は、11月22日に発生した断水時に、昼夜にわたり多大な協力・支援をされたことで迅速な緊急復旧を進めることに大きく貢献されました。佐藤町長は「復旧支援に多大なご協力をいただき心より感謝いたします」と感謝の言葉を述べました。

津別交番の新設に伴うお知らせ

令和3年10月をめどに活汲駐在所と津別駐在所を統合し、津別交番としての運用開始を予定しています。

活汲駐在所は廃止となりますが、新しい津別交番には24時間3交替制の勤務員を配置して夜間のパトロール等を強化します。

また、津別駐在所は建て替え工事に伴い令和3年2月頃から仮事務所として『スポーツ交流館』（下図参照）での運用を予定しています。



ご質問等がありましたら美幌警察署または津別駐在所にご連絡ください。

問い合わせ先
美幌警察署
☎72-0110
津別駐在所
☎76-2610

地域おこし協力隊員が津別町に来て学んだこと、感じたことをつづります。

ガイドとう
仕事

吉井晴紀

弟子屈町出身。令和2年4月から津別で暮らす。9か月の娘の成長に驚きと感心の日々を送っている。

12月になり津別町にもようやく冬が訪れた。私にとって津別で過ごす初めの冬になる。私の職場は上里にあり、通勤する道のほとんどが畑である。粉砂糖を振りかけたケーキのような畑を進み、雪化粧をした幻想的な針葉樹林を抜けると建物が見えてくる。まるでポツンと一軒家のような建物、それが私の職場ノンの森ネイチャーセンターである。

そんな山奥にあるネイチャーセンターでは、6月から11月までの期間「雲海ツアー」や「宇宙ツアー」を津別峠で行っている。津別峠には海外のお城のような展望台があり、室内に入り螺旋階段を上すると360度見渡すことができる広場に

く。そこから見える景色に声を挙げて感動する人が多く、中には感極まつて涙する人もいます。幻想的な景色をただ「綺麗だね」で終わるのではなく、「WHY」なぜなのか、「HOW」どのようにしてなりたっているのかを笑いあり驚きありのガイディングで紐解いていく。ガイドツアー終了後には「楽しかったです」、「また来たいです」、「勉強になりました」など様々な声をいただくことがある。